

4号機 使用済燃料プール内ガレキ 分布状況の調査結果について

2012年3月28日

東京電力株式会社

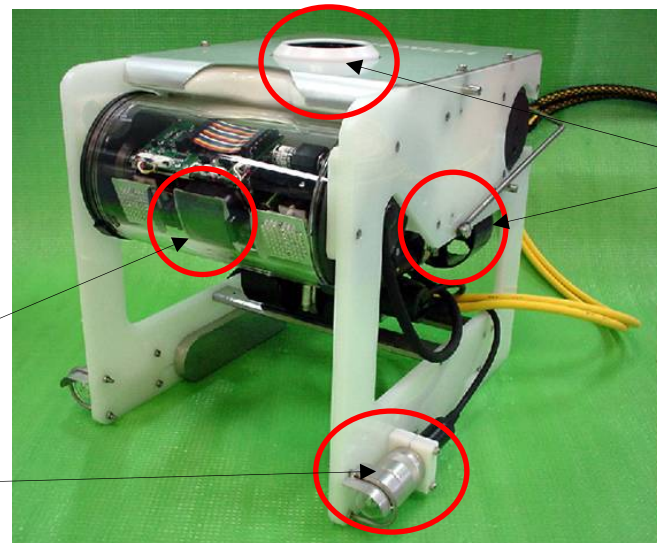


東京電力

1. 4号機使用済燃料プール内ガレキ分布状況の調査について

* Remotely Operated Vehicle
(遠隔水中探査機)

使用済燃料プール内のガレキ分布状況調査にあたっては、遠隔操作が可能であり、かつ水中カメラ自身が駆動力を持つ自走可能なROV*を用いる。



プロペラ

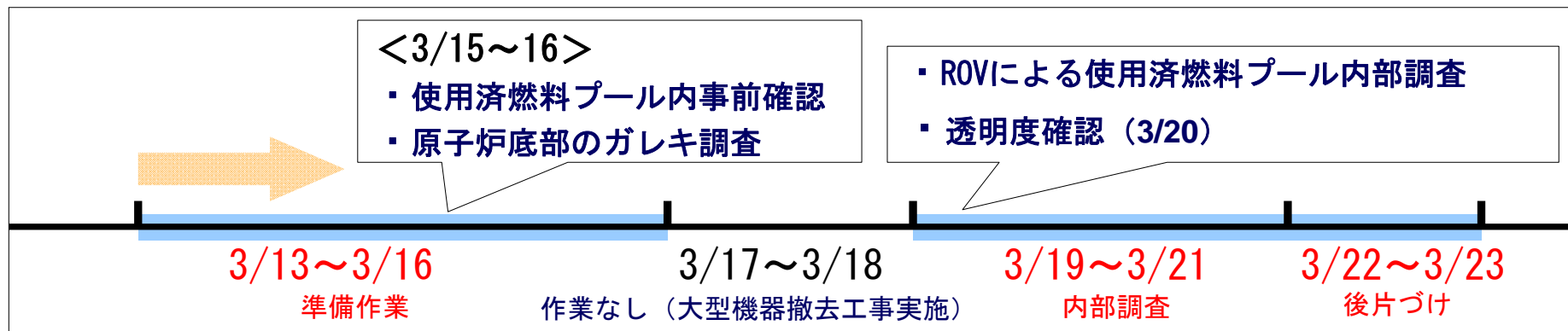
カメラ

照明

撮影日：平成24年2月7日

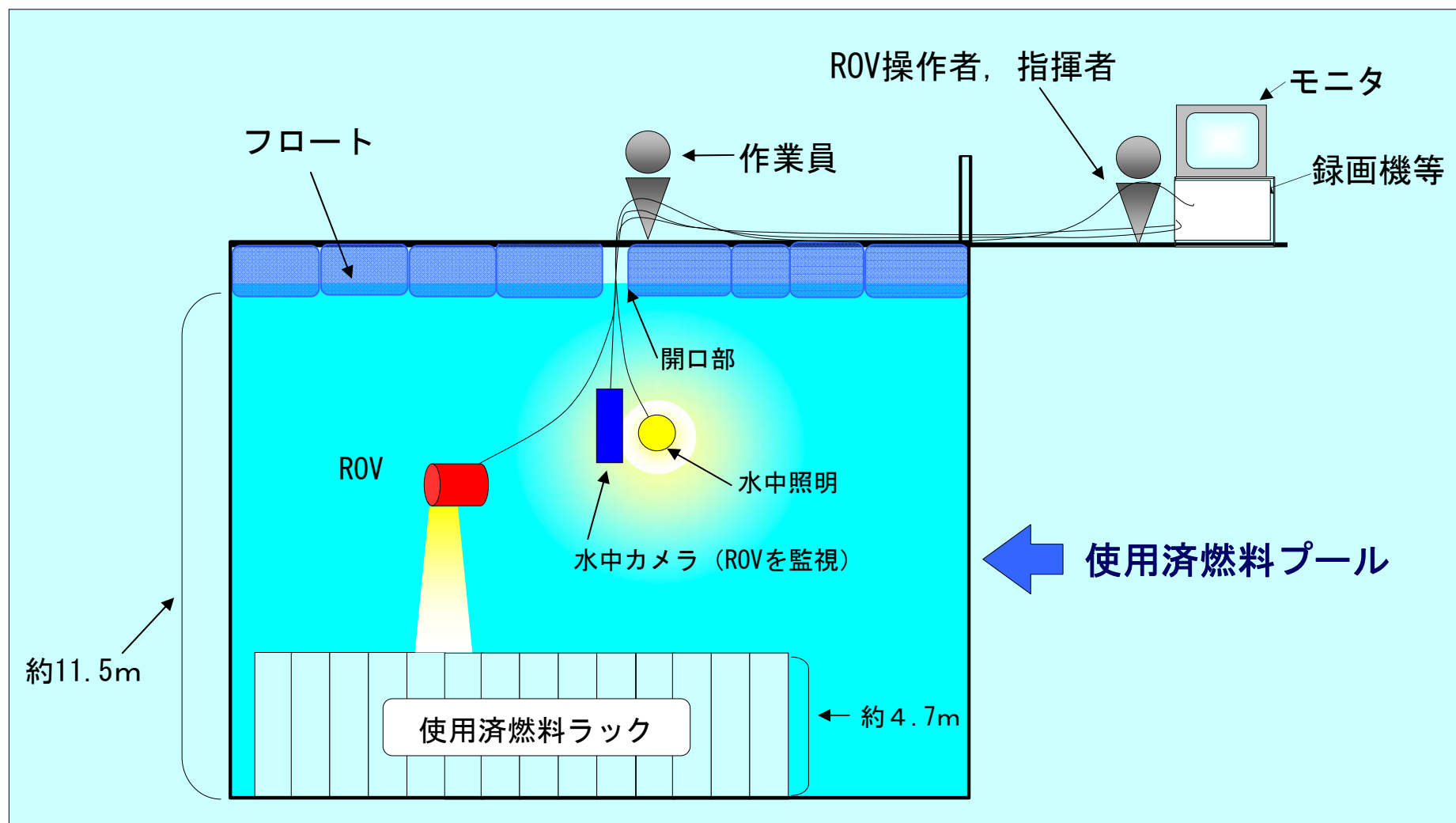
提供：日立GEニュークリア・エナジー株式会社

<全体スケジュール>

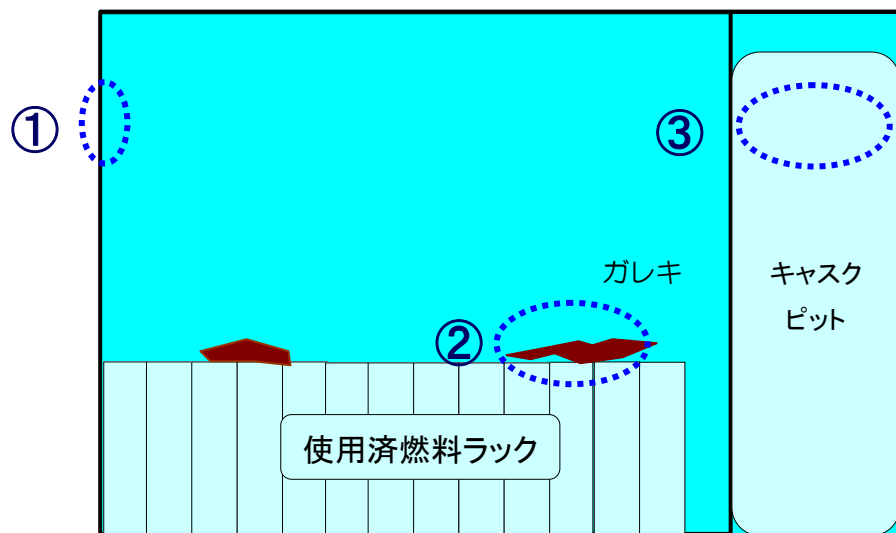


2. 4号機使用済燃料プール内ガレキ分布状況の調査の概要について

使用済燃料プール上を覆っているフロート養生の開口部からROVを使用済燃料プール内に投入し、オペレーティングフロア上で操作を実施。



3. 4号機使用済燃料プール内ガレキ分布状況の調査結果について(3/19~21)



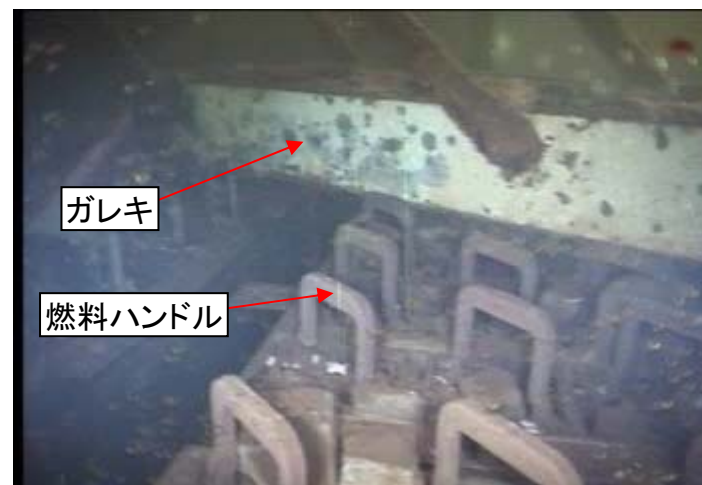
使用済燃料プール



③キャスクピット内部



①南側壁面

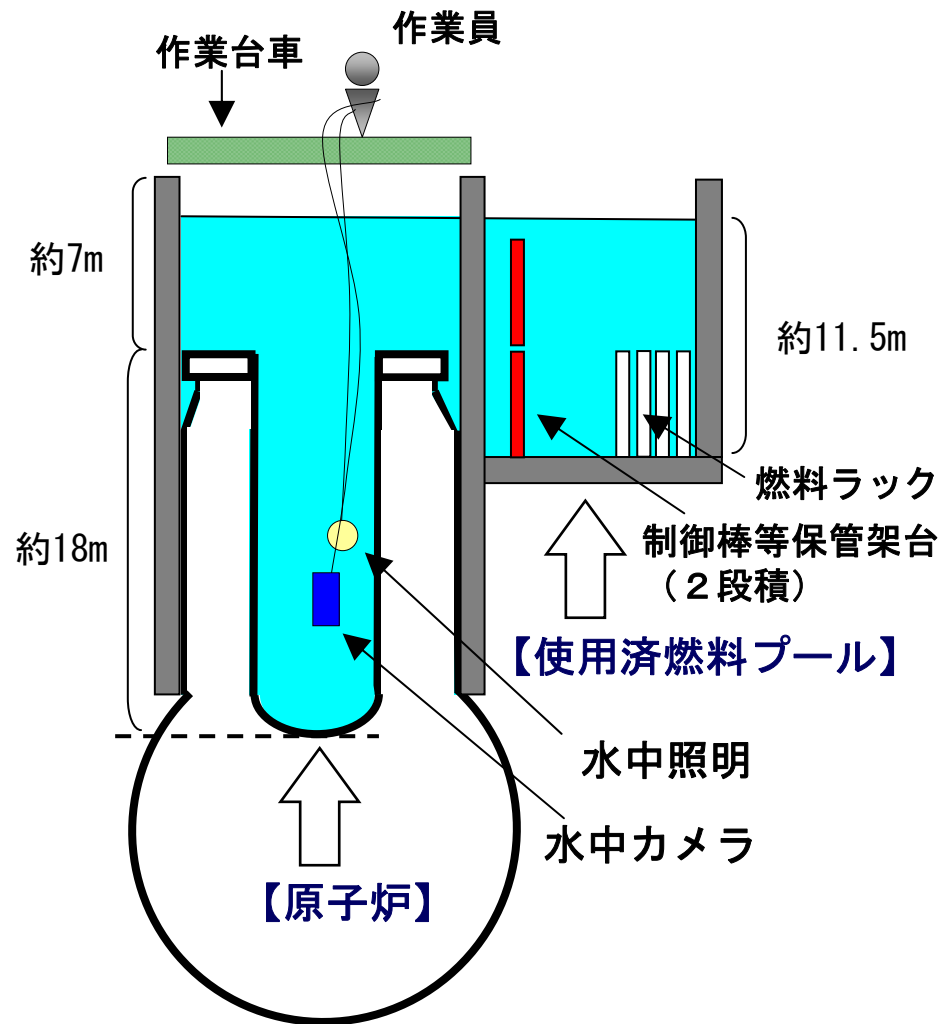


②ガレキ及び使用済燃料上部

4. 4号機原子炉底部ガレキ調査の概要について

【作業目的】

今後の使用済燃料プール内の燃料取り出しの際に、キャスクピット内に保管されている制御棒などを原子炉底部へ移動することを検討しており、計画立案に資するため原子炉底部のガレキ落下状況を確認する。

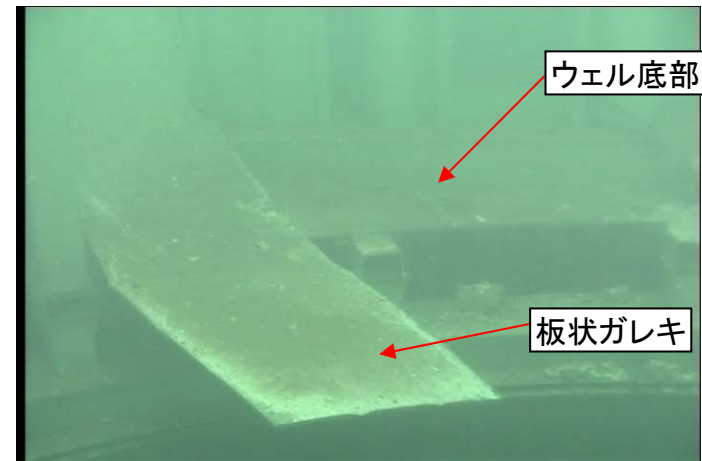
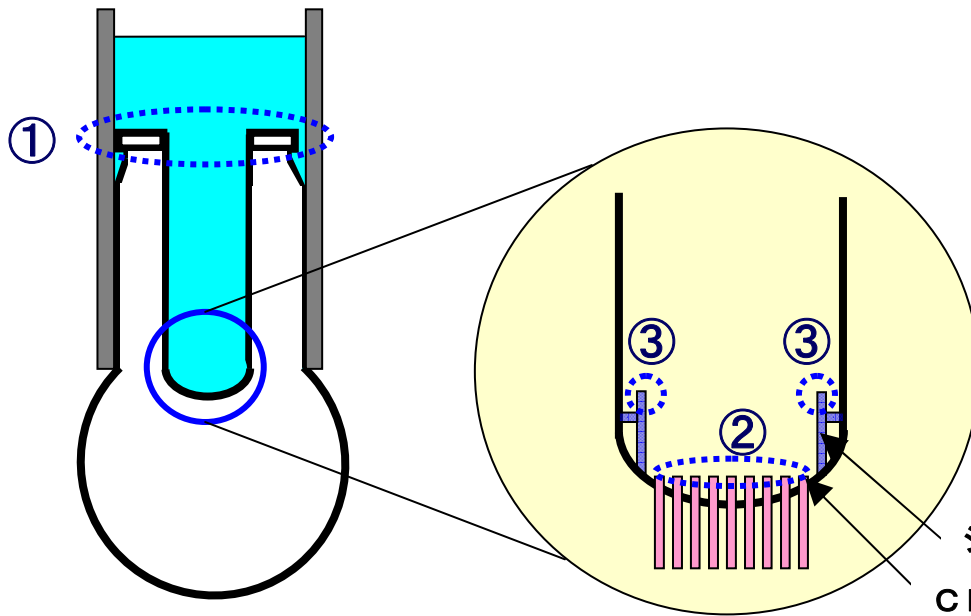


<作業手順>

- ・ 原子炉ウェル上の作業台車から水中カメラを投入
- ・ 作業台車の上から25m程度水中カメラを照明と一緒に吊り下ろす。
- ・ 水中カメラの映像を確認しながら、適宜カメラの首振り操作を行い、視認可能な範囲で炉底部状況を調査。

5. 4号機原子炉底部ガレキ調査結果について(3/15)

原子炉

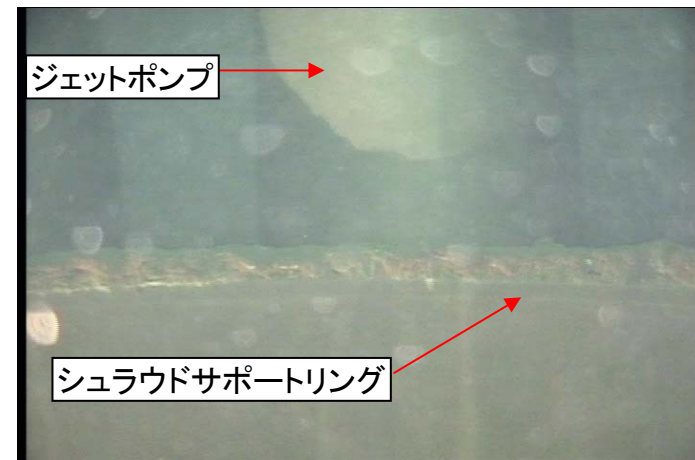


① 原子炉ウエル底部

シュラウドサポートリング
CRDハウジング



② 制御棒駆動機構 (CRD) ハウジング上部



③ シュラウドサポートリング

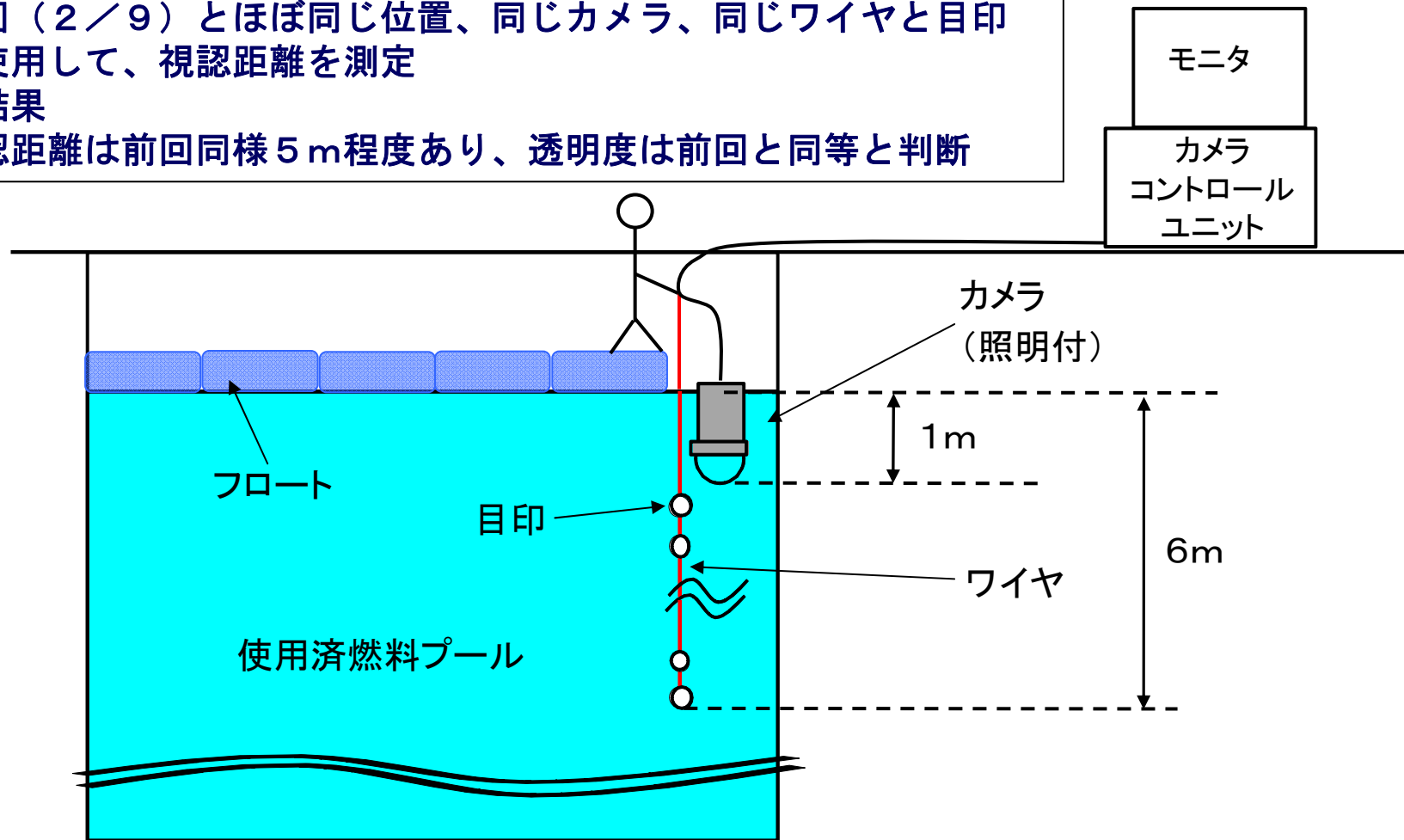
6. 4号機使用済燃料プール内透明度再確認(3/20)

1. 確認方法

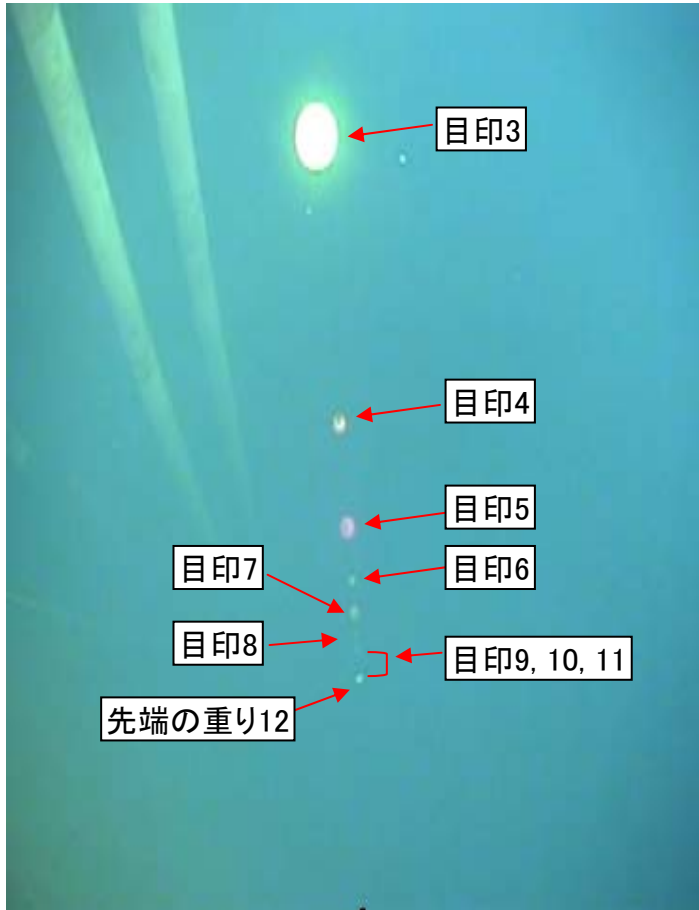
前回(2/9)とほぼ同じ位置、同じカメラ、同じワイヤと目印を使用して、視認距離を測定

2. 結果

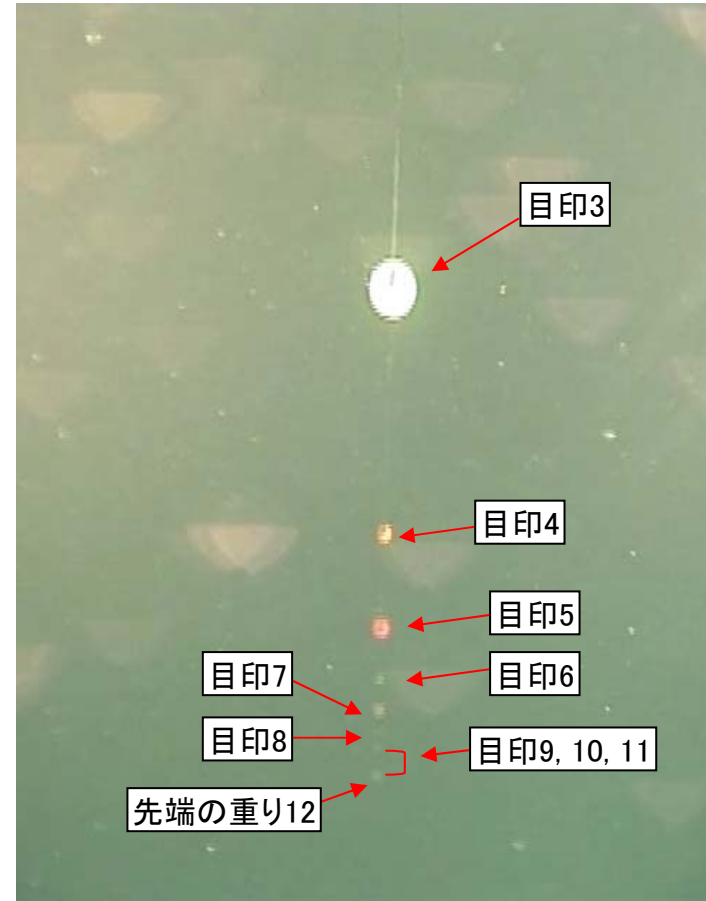
視認距離は前回同様5m程度あり、透明度は前回と同等と判断



7. 4号機使用済燃料プール内透明度再確認の結果について(3/20)



透明度確認画像
(撮影日:2012.02.09)



透明度確認画像
(撮影日:2012.03.20)